

いわれるが、そうだろうか。その状況に適したリーダーの舞台が調ったというに過ぎないのでは。

幕末に下級武士により時代の転換が計られたごとく、コロナ禍により温存していた、有事の指導者の舞台が調ったと信じていた。

## コロナが投げかけた問題

近藤節夫

地球上で猛威を振るっている新型コロナウイルス（以下コロナ）が、今世界中の人びとを恐怖に陥れている。時間の経過とともに、医療、政治、科学、文化など多方面でその功罪が分かかって来た。

中でも改めて見直されているのは、日本古来の風俗習慣と日本文化である。日本人の日常生活には、他人や見知らぬ物体との接触を避ける傾向がある。ごく普通の握手ですら、相手に触れないお辞儀

による挨拶が普通だった。家屋内へ入る時は、玄関で履物を脱いで、床が雑巾で清掃された室内に入る。和室でも座布団を敷いて、幾分ソーシャル・ディスタンスにほど近い場所に座る。外出の際は改めて履物を穿く。この単純な動作の繰り返しだけでも家庭内へ菌が持ち込まれる危険が少なくなる。欧米人は濃厚接触の抱擁、接吻、握手などの行為を気軽に言う生活習慣からマスクの着用すら好まない。その点、日本人は風邪が流行る冬になると進んでマスクを着用する。専門家によると欧米と日本のウイルスの毒性には差があるようだが、それでもこれらの生活習慣から日本では比較的感染者が少なく死者の比率が低いことが、今世界保健機関（WHO）をはじめ、世界中から注目されている。

新国立競技場の設計に携わり木材を採用し入れ周辺環境との調和を目指し、日本の木造建築の特徴と利点をアピールした隈研吾氏が、コロナの猛威に直面して建築家としての課題を改めて考え直したという。近代建築が箱物として効率性を求めた反面、密室により気密性が高まり外

との一体感が失われた。その点で風通しの良い京町家の格子やウナギの寝床と言われる「通り庭」などに和風木造建築の良さがあるという。このコロナ危機に際して日本文化が見直された所以である。

また、今日二酸化炭素による大気汚染が世界的に懸念されている。コロナに伴う経済活動縮小により、一時的に汚染度が低下した。このコロナ危機を機に各国が汚染度低下に意を注ぐべき時にも拘らず、トランプ米大統領は昨年地球温暖化対策のパリ協定からの離脱を正式に通達したままである。地球温暖化を厭わずその原因である経済発展に邁進しようとするアメリカは、コロナ対策でも初期対応の遅れによりアメリカ史上最悪の事態を招いた。

更に、正確な情報をWHOに伝えなかったことからコロナが世界に蔓延するようになったと、コロナの発症国中国を厳しく非難して中国との政治的対立を煽っている有様である。

結局このコロナの感染拡大は、発症国中国と稚拙な対応により国内に世界の4分の1もの感染者を抱えたアメリカの二

大国が、世界中を混乱させ、自ら積極的な解決手段を講じずに無責任な政治的対立へ発展させた。米中の政治的対立がコロナ終息をますます難しくしている。

## コロナ禍の中で 分かってきたこと

都築 功

(武蔵野大学非常勤講師)

1月以来、世界中で多くの人々が同じ敵に立ち向かい、同じような経験をしてきた。そして非常に多くの気付きや社会の変化や課題を共有した。国内でも国政レベル、地方自治体レベル、そして自分が長くかかわってきた教育界でも同様である。ここで3つ挙げてみたい。

1 危機への対応でリーダーの資質や能力の差が人々の前にさらされた

日々の報道の中で、各国のコロナウイルス感染防止策や経済対策等が報道された。誤った政策により感染拡大や死亡者の増加を招く結果になった国、封じ込めることができた国の大きな違いを人々は目の当たりにした。

各国の政策ばかりでなく、リーダーたちの資質や能力の差も歴然とした。自分の言葉で、国民に語りかけるリーダー、片や官僚の準備した原稿を読むだけで全く気持ち伝わってこないリーダー。

国レベルのみならず、都道府県レベルにおいても指示待ちの姿勢の知事、自ら決断し国の政策を変えさせるような影響をもたらした知事など対応の差も鮮明になった。

2 「遠隔」がごく日常的なものとなった

テレワークは以前から研究され一部試みられてきてはいたが、なかなか世の中

に普及しなかった。このたびのコロナ禍で、一挙にテレワークが推進し、学校の一斉休校で遠隔授業も行われるようになった。これまで抵抗があった人々も、意外と使えることに気付いた。学校においても遠隔授業を余儀なくされたところも多いが、遠隔授業が思ったより効果があるといった声も聞く。そして、改めて学校の役割は何かと問い直さざるを得なくなっている。

3 一般の人々の感染症や医学に関する知識が向上した。

毎日のように「PCR検査」という、高等学校の生物の授業でも発展的な内容としてしか扱わない言葉がマスコミに登場して、聞いたことのない人はまずいなくなった。世界中でウイルスやPCR検査、免疫やワクチンに対する知識が否応なしに普及した。また、日本では前から普通のことであったが、「手洗い」や「マスク」といった衛生観念が世界中に、とりわけ途上国にも広まっていった。

もはや意識も生活も、コロナ禍以前に